

第3章 地域の動向

1 福岡農林事務所管内

【木造3階建て木造施設「九州大学伊都ゲストハウス」が完成】

・平成24年3月に、九州大学伊都キャンパス(福岡市西区)に、木造3階建て、延べ床面積2,110㎡の外国人研究者及び留学生宿泊施設が完成しました。

・当該施設は、柱や梁を燃えしろ設計により外部へ露出させ木造建築の力強さを表現するなど随所に設計の工夫がされ、内外装で木の魅力を最大限に引き出したデザインとなっています。

また、施設内の机やテーブルなどにも木製家具が使用されており、より一層木材の良さが体感できる施設にもなっています。

・建築途中には、県内の市町村職員等に呼びかけ、構造見学会を実施したところ、非常に関心が高く、約80名の参加がありました。



九州大学伊都ゲストハウス



構造見学会

【松くい虫被害跡地に森林ボランティアの手で抵抗性マツを植林】

・福岡市東区の奈多国有林内では、平成22、23年に連続して松くい虫被害が発生し、マツ枯れが拡大しました。

・地元の森林ボランティア団体「奈多植林会」では、福岡県森林づくり活動公募事業を利用し、平成24年2月、被害跡地に県民約380名を集め、松くい虫被害に対して抵抗性のある「筑前スーパーくろまつ」の苗木を2,600本植林しました。

・森林ボランティア団体の活躍により、地域の海岸松林を守る気運が高まっています。



ボランティアによるマツ植林

2 朝倉農林事務所管内

【竹製ビニールハウスの建築と実用性の検証】

- ・竹林の手入れ不足が原因で放置竹林が増加し、社会問題化しているため、竹材利用の促進を図ることが必要とされています。
- ・このため、京都大学で考案された「バンブーグリーンハウス」という竹材で設計された竹製ビニールハウスを建築して農業用資材等としての利用促進を図ることを実施しました。
- ・筑前町と地元農林家の協力を得て、筑前町の農産物直売所「みなみの里」に建築した竹製ビニールハウスは、幅5m、奥行き10m、高さ3mで、流線型のモダンなデザインとなっています。
- ・一般公開時に来場者へ行ったアンケートでは、しっかりした造りの良さ、環境面での安心感、従来のフレーム素材に代わる可能性などが評価され、また「竹製品を使ってみたい」、「価格が安ければ竹製ビニールハウスを建ててみたい」という意見もあるなど、大変好評です。



「みなみの里」に設置された竹製ビニールハウス



竹製ビニールハウスの内部

【^{ひめはる}林道「姫治線」の早期完成を目指して】

- ・平成12年度から開設している計画延長19.7kmの森林基幹道「姫治線」は木材生産基盤のほか、集落を結ぶ生活道路としての役割も担っています。また、森林セラピー基地として認定された



3 八幡農林事務所管内

【県産材を使用した「保育園乳児室」が完成】

・遠賀川保育園に平成23年10月、県産スギ材を使った木造乳児室が完成しました。

天井の梁、桁が見えるような構造となっており、内装全体に木の香りや温もりが感じられる乳児室に仕上がっています。また、保育園本棟の北側という立地条件を改善するため、建物上部北側に窓を広く設け、採光や通風にも配慮しています。

保護者や保育士の方の評判も良く、県産材のPR効果が期待されます。



木が一杯の室内



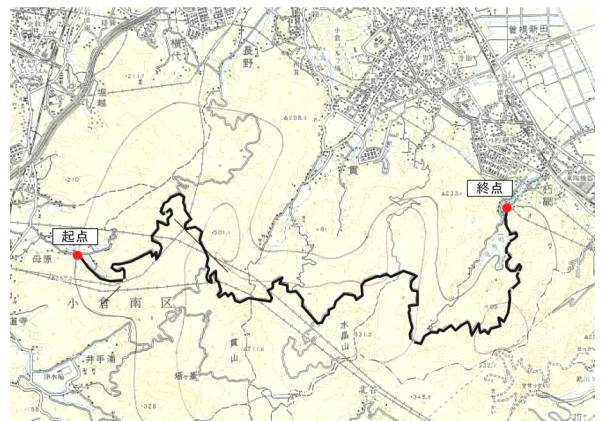
木に囲まれての食事

【北九州市で林道「^{ぬきさん}貫山線」が全線開通】

・平成6年に着手した貫山線林道改築工事が、平成24年3月に全線完成しました。

この工事は、昭和45年から昭和55年にかけて幅員4mで開設した貫山線林道を、森林整備の促進、林業機械大型化への対応を目的として幅員5mに改築し、森林保育管理の徹底、車両の利便性の向上等を図ったものです。

当林道は、小倉南区^{もはら}母原から^{くさみ}朽網までの17kmを結び、利用区域内13路線の林道・作業道を連結する北九州市唯一の基幹林道です。全線完成したことによって、林業の振興や森林整備の促進のみならず、昭和池周辺の散策や貫山から平尾台にかけての登山等、地域住民の多目的な活動の拠点として、利用が期待されています。



森林基幹道「貫山線」の位置図



全線開通した「貫山線」林道

4 飯塚農林事務所管内

【森林組合が講師役の高性能林業機械システム研修】

- ・日頃から素材生産を担当する現場技術者や高性能林業機械の導入を考えている森林組合等が相互に作業システムを見学して、作業オペレーターの技術等を学ぶ研修を管内外で計5回行いました。
- ・各森林組合が現場で講師役を務め人前で説明する経験を通じて、リーダーシップ能力の向上も図られた研修となりました。



高性能林業機械システム研修

【林道「^{ゆみほりだけ}弓張岳線」まもなく完成】

- ・田川郡赤村大字赤と添田町大字津野を結ぶ森林基幹道「弓張岳線」がまもなく完成です。
林道の起点は田川郡赤村の林道岩石線と接続し、終点は添田町の県道英彦山・添田線と接続する総延長8,851mの路線です。
- ・林道の森林利用区域面積は614haであり、スギを中心として構成され、その多くが伐採の時期を迎えており、木材利用の機運が高まっています。
- ・当地域は木材生産活動が盛んで、この林道の開設に伴い、木材の生産性が向上し森林資源の有効活用が図られることや適正な森林の育成・管理が行われることが期待されています。



まもなく完成予定の弓張岳線



弓張岳線において搬出される木材

5 筑後農林事務所管内

【広川町立広川中学校に木造の「武道場」が完成】

・平成 24 年 3 月、広川中学校の武道場（木造平屋建て 737 m²）が完成しました。

この施設は、八女地域のスギ材を構造用集成材として加工した柱や梁、床板や内装材としてふんだんに使用しており、明るく温もりのある施設として、中学校生徒や地域の武道大会等で活用されています。



武道場の全景

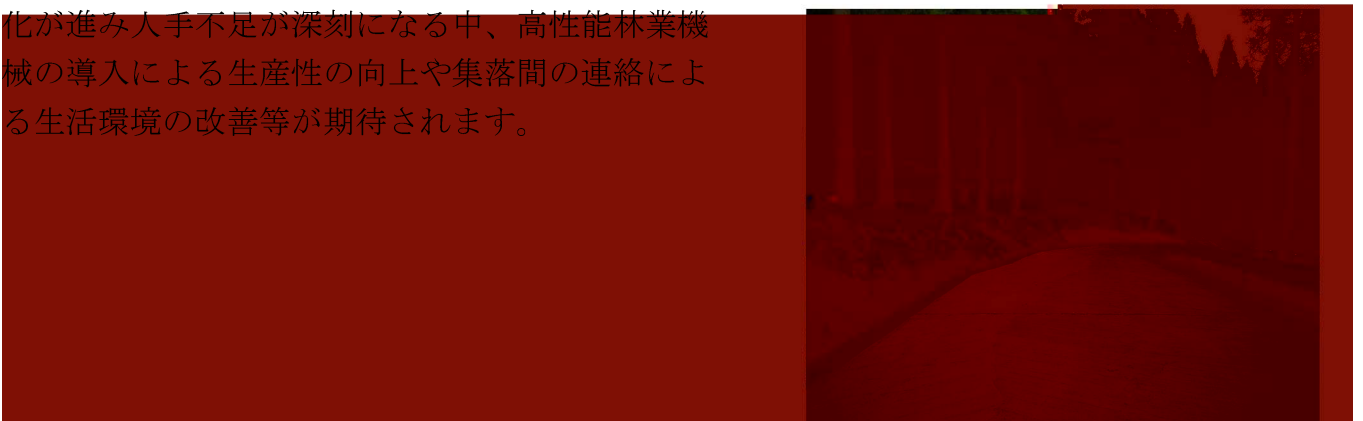
【林道「^{ひいで}日出～^{もみづる}縦鶴線」が全線開通】

・八女市矢部村南東部の星野村境に位置し、県道「浮羽石川内線」と桑取藪集落を結び林道「北矢部線」へと連絡する幅員 4 m、全長 2,150m、利用区域面積 91ha の森林管理道「日出～縦鶴線」が、平成 15 年度に工事着手し平成 23 年度に全線開通しました。

・八女市矢部村は、人工林率 92% と極めて高い県内有数のスギ材の生産地ですが、過疎化及び高齢化が進み人手不足が深刻になる中、高性能林業機械の導入による生産性の向上や集落間の連絡による生活環境の改善等が期待されます。



森林管理道「日出～縦鶴線」の位置図



全線開通した森林管理道「日出～縦鶴線」

6 行橋農林事務所管内

【森の恵みを感じる木工教室】

・ 築上町の築城小学校と葛城小学校で、本棚などを作成する木工教室を開催しました。児童たちは、木の色、手触り、温もり、香りを体験することで森林からの恵みを感じることができました。

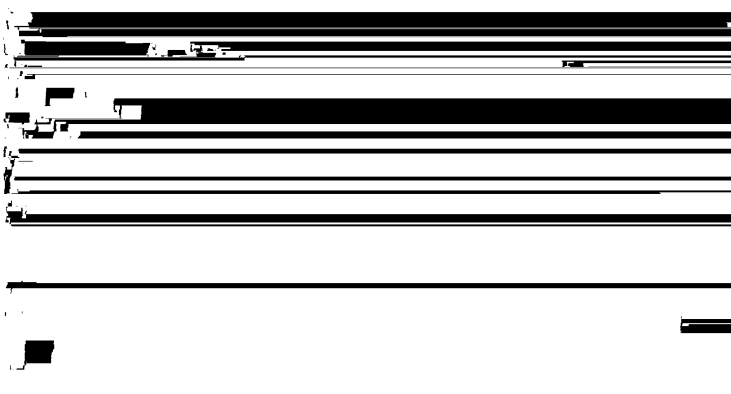
・ 木工教室では、初めてノコギリを使う児童もあり、ワクワク、ドキドキのなか苦労したり、失敗してやり直したりしながらも「楽しくものづくりができました。」と喜んでいました。



築上町 築城小学校での木工教室の様子

【「秋の森」散策ツアー開催】

・ 京築地域の森林林業の普及啓発を図るため、求



京築ブランド館のモデルルームを見学